

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0370300196		
法人名	社会福祉法人 三陸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム さんりく		
所在地	岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通25-7 (電話) 0192-44-1144		
評価機関名	(財) 岩手県長寿社会振興財団 評価公表課		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1号		
訪問調査日	平成19年10月29日	評価確定日	1月10日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	12月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10 人	常勤	5人, 非常勤	5人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	6名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.3歳	最低	79歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	越喜来診療所、小松歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の中に、行政の出先機関、学校、保育所、公民館、保健医療機関、理美容院ほか各種商店など事業所周辺に集中しており、更に事業所が所属する法人で運営する介護福祉施設、通所施設、各種居宅支援事業所も整備されていて、事業所ではこの法人内の各事業所からの協力も十分期待されるところから、まさに地域密着型事業所としてモデルになる程の地域状況になっている。地域密着型サービスは、住み慣れた地域で利用者本位に、途切れのない支援とその人らしさを大切に一人ひとりに寄り添い地域での暮らしを支えるという理念の実践に当事業所は十分応えていかれるものと期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題で事業所での行事の計画と地域への案内がなされ改善されており、トイレ等の手すりの増設については、現在隣地に新築工事の施工が始まっているのでその工事にあわせて施工する予定で年度中の完成が見込まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価について、職員の参加する会議で検討されているが、評価は職員全員で取り組むことで最大の効果をもたらすと考えられ、会議形式では職員個々の考えを集約する迄には至らない面もあるので、職員全員で取り組む自己評価の方法の検討が望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 現在のところ、事業所側からの報告事項や、情報交換が主要な会議の内容になりがちであるが、推進会議に参加されるメンバーが色々な分野からで構成されているので、外部の方の目を通した多様な意見が期待されるところである。特に地域密着型サービスの目指すものを十分に説明し理解を頂いた上で、自己評価、外部評価の内容を会議に提案し課題の改善や更なるサービスの質の向上に向けた意見を頂きたいものである。
	重点項目③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 定期的な家族へのアンケートのお願いや、色々な面で家族の協力が得られる状況にあってその機会での情報交換がスムーズに行なわれているが、家族等の安心を確保し事業所との信頼や協力関係を築くためには事業所からの積極的な報告が不可欠である。本人家族の状況に合わせて個別な報告を徹底することが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域密着型としての地理条件に恵まれた事業所として、その利点を生かした地域との関りが深くなっている。利用者の多くが地域とのつながりが少なくなりつつあるなかで、事業所がそれをどう支えて行くか課題の一つになる。事業所にとって必要な時、都合の良い時だけ地域と関るのではなく、ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程(第2条)に理念を明記するほか、法人の事業計画にも記載がある。また、重要事項の当ホームの特色の記述“ゆったり、いっしょに、たのしさを基本理念とした、認知症高齢者が地域との交流の中でその人らしい生活の場が提供されることを目指します、と表現している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室に、人の目線の高さのところに”思いやり、笑い”と書かれた「処遇の目標」が掲示されていて、日常的に職員の意識に届くよう工夫されているほか、理念の共有は常に会議や学習会のテーマになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームを一步出ると、すぐご近所という状況から、声をかけて頂いたり利用者の外出の状況を連絡して頂くなど、近隣との密着度が高く地域からの支えがある。近くの公民館行事に招待を受けたり、ホームの行事の案内をするなど地域との相互の交流に努めている。		ホームから数百メートル内に、児童施設、小中学校、保健医療機関、理美容、各種商店などがあり、生活を支える場との交流の環境に恵まれており、まさに地域多機能のモデルのような地域状況を十分活用されることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定例会議の中で、外部評価の結果をテーマにその改善策などを検討している。会議の形式では、調査項目の細部や職員個々の考えの集約迄には届きにくい面も考えられるので、自己評価の方法について工夫が考えられる。		評価は一連の過程を通して職員の意識あわせ、振り返りや見直しなど、サービスの質の確保に生かされるものと考えられる。自己評価項目のチェックなどを全職員で取り組んで見るなどの工夫もあり得るものと思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で、運営推進会議が持たれ、色々な意見提言がなされその会議録が整備されている。		運営推進会議に、自己評価の内容の説明や外部評価の結果を示し、取り組みや改善経過のモニターとしての役割が期待されている。評価と運営推進会議を一体的に活かして行くことで相乗効果が生まれるものと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、事業所の広報誌(年4回～5回)を届けるほか利用者の情報など適宜提供している。市の担当部署が遠隔地でもあり電話連絡に頼りがちになっている。		事業を続ける上で、生じる運営やサービスの課題の中には、市担当者と協議しながら解決を図ることが効果的な場合が多いと思われる。事業所だけで抱え込まずに、市の関係部署とともに課題解決を図って行く取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者個々のその日の暮らしを、関わった全ての職員が、一行で記述した”一行日記”を毎月家族に送って近況をお知らせしている。家族の面会時には、職員が直接お話しすることや、変化が見られた時の報告などが適宜に行なわれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回は家族アンケートをお願いして運営に生かすようにしているが、意見が出やすいようにアンケートの内容のテーマを作って答えやすいようにしている。		地域密着型サービスでは、家族と職員が顔の見える関係を作りやすい反面、家族が率直な意見や不満苦情などを言い難い状況にもある。家族等が、それらを職員にはもちろん、外部機関にも安心して表わせる機会を積極的につくっていくことも大切なことと考えられる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は、資格者確保の関係で若干あるが、出来るだけグループホームには職員を定着させたいと管理者は考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の外部研修計画は出来るだけ年度前半(4, 6, 7月)に計画し、勤務の調整をしながら研修に出ている。外部研修の資料などを使用して勉強会を持っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自らの事業所のサービスの質の確保について、更なる掘り下げと、足元を改めて見直すなどの検討をすすめた上で、同業者との実践的な交流に向う意向がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人の自宅を訪問し、家での様子や、家族の話しを聞くなどのほか、出来るだけ家族と共に来所して頂き、他の利用者や職員の様子に接することで、利用後の生活がスムーズに行く事例もある。		馴染みの関係が出来ないまま、いきなりサービスの利用を開始することは、本人に様々なダメージをもたらす危険もある。サービスの場に徐々に馴染み、安心し納得しながら利用できるよう、段階的な支援の工夫を家族と共にやっていくことが大切だと云われている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	郷土色豊かな地域であることから、利用者が馴染んだ季節の料理、折々の独特な行事(節句、正月、お盆)食を食材から調理まで教えて頂き、一緒に作ってそれを味わう時地域に共に生きる幸せを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不穏時(特に夕方)家族に来所してもらい、一緒に過ごして落ち着かせる。アセスメントシートにはすべての職員が、ADLを記入しあっている。利用者の生活歴や状況などを、職員個々がデータとして記録して支援のための根拠にしているが、現在の利用者の思いや希望の把握が困難な場合、職員同士で情報を出し合って本人に取ってどうなのかをメインに話し合っ支援に向けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日行なわれているミーティングやカンファレンスにおいての話し合いの中から出て来る利用者の変化や、課題を大事にして介護計画に生かして行くようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に設定された支援以外のことが、必要になることも介護の現場では日常のことであり、食器の色が真白だと白いごはんが認識出来ず、ごはんが入っていないと訴える利用者などに臨機応変にまず対応して、あらたな計画を作成するようにしている。		安定しているような利用者の場合でも、常に新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認すると共に、関係者の最新の情報や気づき、ケアのアイデアを集めて実情に即し、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所が地域の中での地理的利点(機能)を十分に生かした支援が実践されている。(買物、理美容、医療受診、散歩、外出時の地区の人達との交流)		利用者と家族が安心して暮らし続けて行くために、必要で多様な支援(機能)を介護保険サービスや事業所が、独自に行う自宅サービスの両者を含めたものが多機能の考えと理解されている。利用者と家族の日々変化することや重度化していく状況、要望に応じて必要な時に必要なサービスを臨機応変に柔軟な考えで提供して行くことが求められている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関である、公立診療所(ごく近い。歯科は向い)の全面的支援を受けていて利用者の状況によっては応診にも対応出来ている。遠隔地にかかりつけ医を持っていた利用者には、入所時に本人と家族の同意と納得を得て事業所の協力医療機関に変更していただいた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望でターミナルの看取りをさせて頂いた事例があり、事業所では家族、医療、スタッフとの連携が不可欠との思いを深くしている。医療連携加算の検討やその他細部に亘っての点検を進めて、重度化やターミナルへの支援体制作りを進めている。		本人と家族などの大きな関心と不安のひとつが、重度化した場合の対応のあり方だと云われている。たとえ一度方針を決めていたとしても、本人と家族の思いは常に揺れ動くもので、本人や家族、事業所側の状況の変化のたびに話し合いを繰り返す積み重ねも期待されるところと思う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるような言葉や語調になっていないか、職員同士注意し合っている。入浴や排泄での羞恥心への気配りも大事なことと考え支援に活かしている。個人情報の記録などは事務室の鍵のかかる書庫で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々の生活の中から思い、希望を、職員同士情報を共有して本人のペースに合わせた支援になるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共用の居間に仕切りのない厨房(流し、調理台)での調理、洗い物などが、自然に利用者と職員が一体となって行なわれている。家族や地域の方から食材の差し入れがあり(ホームからご近所におすそ分けが出来る程の分量)、それが食卓に並ぶ時新鮮な話題となって楽しみの一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望通りに入浴出来るようになっているが、入浴したがる方々への支援に色々工夫している。入浴の可否は、入浴マニュアルの判定基準に従い、管理者が判断し決定している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外に出ることが好きな利用者には、向いのお宅にお願いしてそのお宅の草取りをさせて頂き利用者の気晴らしに役立っている。臨時的に地域の方から畑を提供して頂き、農作業で以前の暮らしを思い出すなど、生活に変化を付けることで楽しみごとや気晴らしへの支援に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望が続いている利用者へ外出を多くするなど、気分転換が計られるような支援しているが、どうしても落ち着かない時には家族の面会などの協力をお願いしている。外に出たがらない(外出を渋る)利用者への働きかけの工夫も活動報告書などに見られた。		利用者は屋内だけで過すことによるストレスから、周辺症状の憎悪や体調不良に陥りやすいと言われ、職員もまたストレスの蓄積や、不適切なケアにつながりやすい傾向も考えられる。外出場面を利用者と職員両方にとっての気分転換やストレスの発散、五感刺激を得られるチャンスとして活かしていくことが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(朝6:30~夜9:00)鍵かけはしていない。日中、利用者が、外に出たそうな様子を見逃さないよう注意深く観察している。		災害時の避難誘導は職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の方々や、他の事業所の協力が実際に得られるように日頃からの話し合いや、一緒に訓練など実践的な取り組みが期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での避難訓練を年間計画に折り込んでいるほか、夜間の避難訓練も年に1回実施している。地区での訓練もあるので事業所として参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に法人内の栄養職員により“食べたもの表”を元にチェックして、カロリーの過不足や栄養の偏りがないようにしている。水分チェック表や毎食事の残食チェックをして利用者個々に合せた食生活になるよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所で快適な環境で居心地よく過ごせるようにするために、“目標管理制度”(職員がそれぞれ目標を掲げてその達成度をチェックする機能)の活用により装飾や季節の花、雰囲気作りなど、利用者と職員ともども快適な環境作りに努めている。	○	前回の外部評価の改善課題であった、トイレやその他の手すりの増設が、今年度中に隣接の新築工事に合せて施工すると云う予定を確実に実施されることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の環境作りは、家族の意見を汲み取って、持ち込み物品を決めその人らしい居室になるよう支援している。		